

開扇 七官 木魚 七官 獅子 七官 角 七官 丸 七官

裏白 南京青磁にて内白し、姿いろくあり、七官よりは時代若し、南京青磁ともいふ。

〔茶道便蒙抄〕香合の事

一夏は塗物、冬はやき物を用ゆ、子細は夏は伽羅合香、冬は薰物を用る故也、塗物に色々甲乙あり、難及筆

羽箒

〔和漢茶誌〕宗從事 十二先生之一 俗呼之云一茶掃羽

茶具圖贊曰、孔門高弟當洒掃應對、事之末者、亦所不棄、又況能萃其既散、拾其已遺、連寸毫而使邊塵不飛、功亦善哉、漢以獸毫爲之、蓋宗從事以其一柄運掃左右、形見茶具圖贊

本國以鳥羽作之、或有一羽者、有三羽者、有束用衆羽者、又或取抹茶、以左右鳥羽掃碾上、使英花不飛、是亦宗從事之屬

〔千家茶事不白齋聞書〕羽箒之事

三ツ羽には大鳥、鶴、野鴈、トキ、山鳥、鼻、鴻也、掃込ハ白鳥、鷺也、

一掃込つかみ結には、鴻の羽をあつめ一ツニ結たる物也、是は炭取にも用ゆ、さびたるもの也、桑の炭取杯によし、又掃込にも遣ふ、鴻の大掃込は勝手物也、中立或は客前に座敷掃物也、

一四疊半と大目には左羽を用、向點ト風爐には右羽を用、一ツ羽は酷暑に用、

一三ツ羽に寸法ナシ、羽ニ依テ大小有り、格好宜きニス、結様はこより也、尤掛ル所有がよし、炭取

の小サキニ大キ成ルバ悪シ、炭取ニ依而大小可用、

〔茶道筌蹄〕同取 炭 小道具

羽箒 むかしは鶴、野鴈、鼻、鷺など用ひたれども、障、啄齋より鶴に限る、但し三ツ羽は利休形なり、

一ツ羽 利休形、桑柄、極暑によし、勝手により左右共にあり、